

介護福祉士実務者研修（通信課程） シラバス

1. 人間の尊厳と自立

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
人間の尊厳と自立	5時間（15時間）	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。	
【授業内容の概要】	①人間の尊厳と自立 人間の尊厳と自立について、ソーシャル・ニーズや自立の意味・意義について学ぶ ②介護における尊厳の保持・障害者自立支援制度自立支援、ノーマライゼーション歴史・意義・概念について学び、利用者の権利を守るための福祉従事者の役割や権利擁護の制度について学ぶ	
【授業修了時の達成課題】	「人間の尊厳と自立」・「介護における尊厳の保持・自立支援」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	尊厳の保持、自立・自律の支援、ノーマライゼーション、利用者のプライバシーの保護、権利擁護等、介護の基本的な理念を理解している。	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第1巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60点未満の者は再度、試験・評価を行う	

2. 社会の理解 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
社会の理解 I	5 時間 (15 時間)	テキストの読解と添削問題
授業の目的 ・ねらい	介護に関する近年の社会保障制度の大きな変化である介護保険制度について、介護実践に必要な観点から基礎的知識を習得する。	
授業全体の 内容の概要	①介護保険制度の概要 介護保険制度の概念、用語、しくみ、事業計画、苦情・不服の申し立て、対象者等について学ぶ。	
	②要介護認定とケアマネジメント 要介護認定、ケアマネジメント、ケアマネージャーについて学ぶ	
	③介護サービスの種類と内容 介護サービス、介護予防サービスについて学ぶ	
	④介護サービス事業者と施設 サービス事業者と施設、事業者と施設の種類、介護サービスに関する情報の公表、介護人材の確保について学ぶ。	
	⑤介護報酬 介護報酬、介護報酬の改定の概要について学ぶ。	
	⑥介護財源 保険給付財源、財政安定化のしくみについて学ぶ。	
	⑦介護保険制度創設 介護保険制度創設の背景、新しい発想としくみ、介護保険制度の課題について学ぶ。	
	⑧介護保険の実施状況 介護保険の実施状況と今後の課題、介護保険制度の見直しと改正について学ぶ。	
授業修了時の 達成課題	「介護保険制度」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	介護保険制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第1巻	
評価の方法 及び基準	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再提出し評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

3. 社会の理解 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
社会の理解 II	30 時間 (90 時間)	テキストの読解と添削問題
授業の目的 ねらい	<p>① 生活と福祉 個人が自立した生活を営むことを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間を捉える視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解するための学習とする。</p> <p>② 会保障制度 我が国をはじめ、各国の社会保障(福祉)の基本的な考え方、歴史と変遷、しくみや社会要請の背景について理解する学習とする。</p> <p>③ 障害者自立支援制度 介護実践に必要とされる観点から、障害・福祉サービスの諸制度の基礎的知識を習得する学習とする。</p> <p>④介護実践に関連する諸制度 医療制度、年金制度、所得保障、生活保護、児童家庭福祉、住宅および居住政策成年後見制度について学習する。</p>	
授業全体の 内容の概要	<p>①生活と福祉 生活者とは何かを学び、生活における適応技能を学習する。</p> <p>②社会保障制度 家族介護から社会介護への歴史、考え方の変遷、今後の課題を学ぶ。また、社会福祉先進国の概要を学んで、日本の今後について考察する力を養う。</p> <p>③障害者自立支援制度 障害者自立支援制度の改正やその背景にあるニーズや自立支援サービスの内容を学び、ホームヘルプサービスの制度の概要も学習する。</p> <p>④介護実践に関連する諸制度 医療保険制度概要を学び、後期高齢者医療制度についても学習する。高齢者に関わりの深い年金制度、労働者災害補償保険や雇用保険、高年齢求職者給付金や社会手当などの所得保障を学習する。憲法第 25 条に基づく生活保護の理念・制度、児童家庭福祉の理念や施策、住宅および居住政策では、高齢者等のための住宅・居住制度他を学び、成年後見制度の概要についても学習する。</p>	
授業修了時の 達成課題	<p>「生活と福祉」・「社会保障制度」・「障害者自立支援制度」・「介護実践に関連する諸制度」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。</p>	
到達目標	<p>①家族、地域、社会との関連から生活と福祉をとらえることができる。</p> <p>②社会保障制度の発達、体系、財源等についての基本的な知識を習得している。</p> <p>③障害者自立支援制度の体系、目的、サービスの種類と内容、利用までの流れ、利用者負担、専門職の役割等を理解し、利用者等に助言できる。</p> <p>④成年後見制度、生活保護制度、保健医療サービス等、介護実践に関連する制度の概要を理解している。</p>	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第 1 巻	
評価の方法 び基準	<p>・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する</p> <p>※60 点未満の者は再提出し・評価を行う</p>	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

4. 介護の基本 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
介護の基本 I	10 時間 (30 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	「尊厳の保持」・「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。	
【授業全体の内容の概要】	①介護福祉士制度 介護福祉士資格制度、資格取得の方法、介護サービス従事者の養成システム全般の見直し等について学習する。	
	②尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開 尊厳を支えるケア、ICF の概念・歴史やケアプランなどとの関連性、リハビリテーションの理念・リハビリテーション医療の過程、リハビリテーションチーム職種との連携、また介護予防とリハビリテーションについて学習する。	
	③介護福祉士の倫理 介護福祉士として必要な倫理と尊厳の理解、守秘義務や個人情報保護、介護サービス契約、サービス実施時の留意点、身体拘束の概念や禁止への取り組み、虐待の防止について学習する。	
【授業修了時の達成課題】	「介護福祉制度」・「尊厳の保持、自立に向けた介護の考え方と展開」・「介護福祉士の倫理」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①介護福祉士制度の沿革、法的な定義・業務範囲、義務等を理解している。 ②個別ケア、ICF (国際生活機能分類)、リハビリテーション等の考え方を踏まえ、尊厳の保持、自立に向けた介護を展開するプロセス等を理解している。 ③介護福祉士の職業倫理、身体的拘束禁止・虐待防止に関する法制度等を理解し、倫理を遵守している。	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第2巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再提出し評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

5. 介護の基本 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
介護の基本 II	20 時間 (60 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	「尊厳の保持」・「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉えるための学習。また、介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。	
【授業全体の内容の概要】	①介護を必要とする人の生活の理解と支援 生活環境の捉え方、すべての人を対象とする地域生活支援、地域アセスメントの技術と方法について学習する。	
	②介護実践における連携 チームケアや連携とチームケアについて学習する。	
	③介護における安全の確保とリスクマネジメント 介護サービスを提供する人の安全確保、リスクを回避するためのリスクマネジメントについて学習する。	
	④介護福祉士の安全と労働法規 介護職員の健康管理、ストレスマネジメント、労働の権利と制度について学習する。	
【授業終了時の達成課題】	「介護を必要とする人の生活の理解と支援」・「介護実践における連携」・「介護における安全の確保とリスクマネジメント」・「介護福祉士の安全」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①介護を必要とする高齢者や障害者等の生活を理解し、ニーズや支援の課題を把握することができる。 ②チームアプローチに係る職種や関係機関の役割、連携方法に関する知識を習得している。 ③リスクの分析と事故防止、感染管理等、介護における安全確保に関する知識を習得している。 ④介護福祉士の心身の健康管理や労働安全対策に関する知識を習得している。	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第2巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

6. コミュニケーション技術

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
コミュニケーション技術	20 時間 （60） 時間	テキストの読解と添削問題
授業の目的 ねらい	介護を必要とする人の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。	
授業全体の 内容の概要	<p>①コミュニケーションの基礎的理解と介護におけるコミュニケーション技術 コミュニケーションとは何かを考え、他者や自己を理解することを学ぶ。次に信頼関係を築く姿勢を学習し、面接技術を理解する。コミュニケーションと信頼関係や介護職員の行う相談援助も学習する。</p> <p>②介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション 高齢者や障害者（児）とその家族の心理を理解することや、こころのケアの基礎や介護におけるチームのコミュニケーションについて学習する。</p> <p>③介護におけるチームのコミュニケーション 利用者には、様々な障害によりコミュニケーションを取りにくい人がいます。介護職員は、その状態を共有し、適切に対応することが求められます。チームでケアするための基礎となる記録の意義・重要性についても学習する。</p>	
授業修了時の 達成課題	「介護におけるコミュニケーション技術」・「介護場面における利用者・家族とのコミュニケーション」・「介護におけるチームのコミュニケーション」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことができる。	
到達目標	<p>①利用者・家族とのコミュニケーション・相談援助の技術を修得している。</p> <p>②援助関係を構築し、ニーズや意欲を引き出すことができる。</p> <p>③利用者の感覚・運動・認知等の機能に応じたコミュニケーションの技法を選択し活用できる。</p> <p>④状況や目的に応じた記録、報告、会議等での情報の共有化ができる。</p>	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第3巻	
評価の方法及 び基準	<p>・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する</p> <p>※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う</p>	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

7. 生活支援技術 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
生活支援技術 I	20 時間 (60 時間)	テキストの読解と添削問題
授業の目的・ねらい	尊厳保持の観点から、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。	
授業全体の 内容の概要	①生活支援と ICF 生活支援における ICF について学ぶ。	
	②ボディメカニクスの活用 ボディメカニクスを活用した介護の原則を学習する。	
	③介護技術の基本 介護技術の、移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等の基本を学習する。	
	④環境整備、福祉用具活用等の視点 生活機能が低下した利用者を支えるため必要な福祉用具住宅改修や、利用者が自宅で生活したいと感じる室内の環境整備について学習する。	
授業修了時の 達成課題	「生活支援と ICF」・「ボディメカニクスの活用」・「介護技術の基本」・「環境整備、福祉用具活用等の視点」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
到達目標	<p>①生活支援における ICF の意義と枠組みを理解している。</p> <p>②ボディメカニクスを活用した介護の原則を理解し、実施できる。</p> <p>③介護技術の基本(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、家事援助等)を修得している。</p> <p>④居住環境の整備、福祉用具の活用等により利用者の環境を整備する視点・留意点を理解している。</p> <p>⑤ターミナルケアとその支援を理解している。</p>	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
評価の方法及び基準	<p>・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する</p> <p>※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う</p>	

8. 生活支援技術 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
生活支援技術 II	30 時間(90 時間)	テキストの読解と添削問題
授業の目的・ねらい	尊厳保持の観点から、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する。	
授業全体の 内容の概要	①利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備	
	②移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、についての介助技術を主に学習する	
	③終末期の介護 在宅でのターミナルケアと支援について学習する。	
授業修了時の 達成課題	「利用者の心身の状況に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備」を理解し、福祉従事者として、習得した技術を業務に生かすことができる。	
到達目標	「移動・移乗」・「食事」・「入浴・清潔保持」・「排泄」・「着脱、整容、口腔清潔」・「睡眠」・「終末期の介護」について、利用者の心身の状態に合わせた介護、福祉用具等の活用、環境整備を行うことができる。	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
評価の方法及び基準	<ul style="list-style-type: none"> ・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する <p>※60 点未満の者は再提出し評価を行う</p>	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

9. 介護過程 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
介護過程 I	20 時間 (60 時間)	テキストの読解と添削問題
授業の目的 ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う学習とする。	
授業全体の 内容の概要	①介護過程の基礎的知識 ②介護過程の展開 ③介護過程とチームアプローチ	
授業修了時 の達成課題	「介護過程の基礎的知識」・「介護過程の展開」・「介護過程とチームアプローチ」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
到達目標	①介護過程の目的、意義、展開等を理解している ②介護過程を踏まえ、目標に沿って計画的に介護を行う ③チームで介護過程と展開するための情報共有の方法、各職種の役割を理解している	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
評価の方法 及び基準	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再提出し再評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

10. 介護過程 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
介護過程 II	25 時間(75 時間)	テキストの読解と添削問題
授業の目的 ねらい	他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供が出来る能力を養う学習とする。	
授業全体の内容の概要	<p>介護過程の展開の実際</p> <p>① 用者の状態(障害、要介護度、医療依存度、居住の場、家族の状況等)について事例を設定し、介護過程を展開させる</p> <p>②観察のポイント、安全確保・事故防止、家族支援、他機関との連携についても考察させる</p> <p>③介護の専門性を活かした介護過程、介護計画のアセスメント、介護計画について学習する</p>	
授業終了時の達成課題	事例で学んだことを基に、利用者の観察のポイント、安全確保、事故防止、家族支援、他機関との連携が出来、福祉従事者として、習得した知識・技術を業務に生かすことが出来る。	
到達目標	①情報収集、アセスメント、介護企画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直しを行うことができる	
使用テキスト	中央法規出版 実務者研修テキスト 第5巻 および別冊	
評価の方法及び基準	<p>・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する</p> <p>※60 点未満の者は最提出し評価を行う</p>	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

11. 発達と老化の理解 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
発達と老化の理解 I	10 時時間 (30 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する理解や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する。	
【授業全体の内容の概要】	①老化に伴う心の変化と日常生活への影響 ②老化に伴うからだの変化と日常生活への影響	
【授業修了時の達成課題】	「老化に伴う心の変化やからだの変化」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①老化に伴う心理的な変化の特徴と日常生活への影響を理解している ②老化に伴う身体的機能の変化の特徴と日常生活への影響を理解している	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する 60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

12. 発達と老化の理解 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
発達と老化の理解 II	20 時間 (60 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	発達の観点からの老化を理解し、老化に関する理解や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得する学習とする。	
【授業全体の内容の概要】	①人間の成長・発達 ②老年期の発達・成熟と心理 ③高齢者に多い症状・疾病等と留意点	
【授業修了時の達成課題】	特に「老年期の発達・成熟と心理」・「高齢者に多い使用上・疾病等と留意点」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①発達の定義、発達段階、発達課題について理解している。 ②老年期の発達課題、心理的な課題（老化、役割の変化、障害、喪失、経済的不安、うつ病）と支援の留意点について理解している ③高齢者に多い症状・疾病等と支援の留意点について理解している	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4 巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

13. 認知症の理解 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
認知症の理解 I	10 時間(30 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする	
【授業全体の内容の概要】	①認知症ケアの理念 ②認知症による生活障害、心理・行動の特徴 ③認知症の人とのかかわり・支援の基本	
【授業終了時の達成課題】	「認知症ケアの理念」・「認知症による生活障害、心理・行動の特徴」・「認知症の人とのかかわり・支援の基本」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①認知症ケアの取組の経過を踏まえ、今日的な認知症ケアの理念を理解している。 ②認知症による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している ③認知症の人やその家族に対する関わり方の基本を理解している	
【使用テキスト】	日本医療企画 実務者研修テキスト 第4巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

14. 認知症の理解 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
認知症の理解 II	20 時間 (60 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする	
【授業全体の内容の概要】	①医学的側面からみた認知症の理解 ②認知症の人や家族への支援の実際	
【授業終了時の達成課題】	「医学的側面からみた認知症の理解」・「認知症の人への家族への支援の実際」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①代表的な認知症（若年性認知症を含む）の原因疾患、症状、障害、認知症の進行による変化、検査や治療等についての医学的知識を理解している。 ②認知症の人の生活歴、疾患、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる ③地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

15. 障害の理解 I

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
障害の理解 I	10 時間(30 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。	
【授業全体の内容の概要】	①障害者福祉の理念 ②障害による生活障害、心理・行動の特徴 ③障害児者や家族へのかかわり・支援の基本	
【授業修了時の達成課題】	「障害者福祉の理念」・「障害による生活障害、心理・行動の特徴」・「障害児者や家族へのかかわり・支援の基本」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①障害の概念の変遷や障害者福祉の歴史を踏まえ、今日的な障害者福祉の理念を理解している。 ②障害（身体・知的・精神・発達障害・難病等）による生活上の障害、心理・行動の特徴を理解している ③障害児者やその家族に対する関わり・支援の基本を理解している	
【使用テキスト】	中央法規出版	実務者研修テキスト 第4巻
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

16. 障害の理解 II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
障害の理解 II	20 時間 (60 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。	
【授業全体の内容の概要】	①医学的側面からみた障害の理解 ②障害児者への支援の実際	
【授業修了時の達成課題】	「医学的側面からみた障害の理解」・「障害児者への支援の実際」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことができる。	
【到達目標】	①様々な障害の種類・原因・特性、障害に伴う機能の変化等についての医学的知識を習得している。 ②障害児者の障害、家族・社会関係、居住環境等についてアセスメントし、その状況に合わせた支援ができる。 ③地域におけるサポート体制を理解し、支援に活用できる。	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修（通信課程） シラバス

17. ころとからだのしくみⅠ

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
ころとからだのしくみⅠ	20 時間(60 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面の配慮を理解する学習。	
【授業全体の内容の概要】	介護に関係した身体の仕組みの基礎的な理解(移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔等)	
【授業終了時の達成課題】	「ころとからだのしくみ(身体の基礎的な理解)」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	介護に関係した身体の構造や機能に関する基本的な知識を修得している。	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第4巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

18. ころとからだのしくみ II

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
ころとからだのしくみ II	60 時(180 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	介護技術の根拠となる人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全の留意点や心理的側面への配慮を理解する学習。	
【授業全体の内容の概要】	①人間の心理 ②人体の構造と機能 ③身体の仕組み、心理・認知機能等を踏まえた介護におけるアセスメント・観察のポイント、介護・連携等の留意点（移動・移乗、食事、入浴・清潔保持、排泄、着脱、整容、口腔清潔、睡眠、終末期の介護）	
【授業終了時の達成課題】	「ころとからだのしくみ」を理解し、福祉従事者として、習得した知識を業務に生かすことが出来る。	
【到達目標】	①人間の基本的欲求、学習・記憶等に関する基礎的知識を修得している。 ②生命の維持・恒常、人体の部位、骨格・関節・筋肉・神経、ボディメカニクス等、人体の構造と機能についての基本的な知識を修得している。 ③身体の仕組み、心理・認知機能等についての知識を活用し、アセスメント、観察、介護、他職種との連携が行える。	
【使用テキスト】	日本医療企画 実務者研修テキスト 第7巻	
【評価の方法及び基準】	・添削問題 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修 (通信課程) シラバス

19. 医療的ケア

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
医療的ケア	50 時間(150 時間)	テキストの読解と添削問題
【授業の目的・ねらい】	○医療的ケアに必要な知識を習得した後(通信課程)、演習を行うので、 医療的ケアとは何かをつかみ、演習時の技術的な知識を修得する。	
【授業全体の内容の概要】	○医療的ケア(安全な療養生活・清潔保持と感染予防)の全般的学習	
	○喀痰吸引(基礎的知識の修得)	
	○経管栄養(基礎的知識の修得)	
	○救命蘇生法(基礎的知識の修得)	
【授業修了時の達成課題】	○医療・介護関連法規とチーム医療	
	○医療的ケア実施の基礎	
	○喀痰吸引(基礎的知識・実施手順)	
【到達目標】	○経管栄養(基礎的知識・実施手順)	
	医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識を修得する。	
【使用テキスト】	中央法規出版 実務者研修テキスト 第5巻 その他、適宜プリントを配布	
【評価の方法及び基準】	・修了試験で 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う	

介護福祉士実務者研修 シラバス

20. 介護過程Ⅲ

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
介護過程 III	45 時間	スクーリングによる演習・実技を実施する
【授業の目的・ねらい】	<ul style="list-style-type: none"> ○研修（通信添削）課程で学んだ知識・技術を確実に習得する。 ○介護過程の実際を授業（スクーリング）を通して理解する。 ○介護技術の原理・原則を実際に体験して習得する。 	
【授業全体の内容の概要】	<ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の展開 多様な事例を設定し、介護過程を展開させるとともに、知識・技能を総合的に活用した分析力・応用力を評価する ○演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ） ○介護技術の評価 介護技術の原理・原則の修得・実践とともに、知識・技術力を総合的に活用した介護技術の応用力・分析力の評価を行う ○実技試験を実施し、評価するとともに要点の解説を行う。 	
【授業終了時の達成課題】	<ul style="list-style-type: none"> ○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じて介護過程を展開し、系統的な介護（アセスメント、介護計画立案、実施、モニタリング、介護計画の見直し等）を作成し、質の高い介護を提供できる。 ○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、多職種、他機関との連携を行うことができる。 ○知識・技術を総合的に活用し、利用者の心身の状況に応じた介護を行うことができる。 	
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針		
【介護過程の展開】	<ul style="list-style-type: none"> ○介護過程の基礎知識と応用（ケアプランとサービス計画に関する基礎的理解 居宅サービス計画・訪問介護計画・通所介護計画等とサービスの関係） ○演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ） 	
【知識等の習得度の評価】	演習（事例を用いたグループワーク・ロールプレイ）と復習 テキストの事例に基づいた介護技術の評価	
【介護技術の評価】	介護計画の作成・介護技術の評価	
【使用テキスト】	中央法規出版 テキスト 第3巻 その他、適宜プリントを配布	
【評価の方法及び基準】	<ul style="list-style-type: none"> ・実技試験 60 点以上で合格とし、この科目の修了を認定する ※60 点未満の者は再度、試験・評価を行う 	

21. 医療的ケア演習

大西ケア・アカデミー

科目名	時間数	授業の方法
医療的ケア演習	12～15時間	スクーリングにより演習・評価を実施する
【授業の目的・ねらい】	○医療的ケアに必要な知識を習得した後(通信課程)、演習を行い、技術を習得する	
【授業全体の内容の概要】	○医療的ケア演習に臨み全般的説明	
	○喀痰吸引(基礎的知識をもとに実施手順を演習により学ぶ)	
	○経管栄養(基礎的知識をもとに実施手順を演習により学ぶ)	
	○救命蘇生法(基礎的知識をもとに実施手順を演習により学ぶ)	
【授業終了時の達成課題】	○演習(喀痰吸引・経管栄養・救命蘇生法)	
	○実務者研修課程で学んだ知識・技術を確実に習得し、活用できる。	
	○知識・技術を総合的に活用し、演習で指導を受けたことを行うことができる。	
○介護計画を踏まえ、安全確保・事故防止、家族との連携・支援、多職種、他機関との連携を行うことができる。		
授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方針		
【経管栄養】	経管栄養(基礎的知識をもとに実施手順を演習により学ぶ) 演習(経管栄養)	
【喀痰吸引】	喀痰吸引(基礎的知識をもとに実施手順を演習により学ぶ) 演習(喀痰吸引)	
【救命蘇生法】	救命蘇生法(基礎的知識をもとに実施手順を演習により学ぶ) 演習(救命蘇生法) 演習(救急救命)	
【使用テキスト】	中央法規出版 第5巻 実務者研修テキスト その他、適宜プリントを配布	
【評価の方法及び基準】	実技評価はすべての項目を5回以上クリアし合格することでこの科目の修了を認定する ※不合格の者は再度、試験・評価を行う	